地震災害に伴う感情予測と災害への関心

：時系列データの分析

野田 理世

(金城学院大学 人間科学部)

キーワード：感情予測，防災行動

Affective Forecasting and Interest in Natural Disasters

Masayo Noda

(Kinjo Gakuin University Department of Human Sciences)

Key Words: Affective forecasting, Disaster preparedness

目的

意思決定や判断は、将来の出来事が自分にどのようなことをもたらすのかを予測して行われることがある。将来の出来事を予測する場合、その時に自分が感じる感情を予測することがしばしばあり、意思決定や判断は、その予測された感情から影響を受けることがある。

この感情反応の予測には、バイアスのかかる傾向があるため、その影響を多角的に検討する必要がある。感情反応の予測は、実際にその時になって感じられる感情反応よりも大きな反応が予測されることが指摘されており、このような現象はインパクトバイアスとよばれている (e.g., Gilbert, et al., 2002; Wilson & Gilbert, 2003)。インパクトバイアスが認知に及ぼす影響を考えた場合、地震災害に伴うネガティブな感情反応を予測することで、現在の防災行動に対する動機づけが高くなることが明らかになっている(野田・元吉, 2009)。

防災行動は、日常の中で継続して行う準備を必要とする。そのため、感情予測による影響がみられたとしても、その継続性を考える必要がある。防災行動のプランニングを考えた場合、防災行動に対する動機づけは重要な変数の一つと考えられるが、地震災害に対する関心もあわせて重要なものとなる。そこで本研究では、地震災害に伴うネガティブ感情予測が、地震災害に対する関心に及ぼす影響を明らかにし、その影響が時系列的にどのように変化するかを検討する。

方法

実験参加者 4年生大学の学生を対象に実施された。

手続き 講義時間を利用して合計3回の実験が実施された。第1回目実験では、元吉・高尾・池田(2008)を参考に、実験参加者がもともと持つ防災行動に対する動機づけ、及び地震災害に対する関心を質問した。第2回目実験は、第1回目実験から1週間後に実施された。“地震のイメージに関する調査に協力するように”依頼し、1ヶ月後のある日に大地震が起こった時のことを想像し、その大地震が起こった時の気分(感情)や、その時のことを想像して話を5分間書くように教示した。次に、地震が起こった日、その次の日、及び3日後の感情を予測して評定するように指示し、最後に、第1回目実験と同様に防災行動に対する動機づけ、及び地震災害に対する関心を質問した。第3回目実験は、第2回目実験からおよそ一ヶ月後に実施された。防災行動に対する動機づけ、及び地震災害に対する関心が質問された。

結果と考察

感情予測前、予測直後、予測一ヶ月後の地震災害に対する関心を質問した5項目に対して因子分析(主因子法、プロマックス回転)を行った結果、一因子性が確認できたため($\alpha = .80$)、以下の分析では5項目の平均値を用いた。

感情予測前、予測直後、予測一ヶ月後の地震災害に対する関心をFigure 1.に示す。地震災害に対する関心について、時期(3)の一要因分散分析を行った結果、有意な効果は認められなかった($F(2, 127) = 2.12, ns$)。地震災害に伴うネガティブな感情反応を予測した場合、直後の地震災害に対する関心に殆ど影響しないことが示された。また、地震災害に伴うネガティブな感情反応の予測は、遅延後にも影響を与えなかった。

この結果は、防災行動を促進するために、どのような情報を提供するのがよいのかを考えた場合に示唆を与える。本研究の結果、地震災害に伴うネガティブ感情反応の予測は、災害に対する関心には影響しないことが明らかとなった。一方で、防災行動に対する動機づけには影響を及ぼすことが明らかとなっている(野田・元吉, 2009)。つまり、災害に伴うネガティブ感情反応の予測は、災害自体についての関心(例；～を知りたいと思う)には影響しないが、防災行動への動機づけ(例；これから～しよう)には影響する。防災行動の促進を考えた場合、災害に伴う感情反応の予測は一定の効果を持つ可能性が示唆されるが、それと同時にどのような情報を提供するのが適切なのかを考えた場合、災害への興味、関心を促す情報を提供するよりは、防災行動に関する具体的な情報を提供する方が効果的である可能性が示された。

Figure 1. 感情予測前、予測直後、予測一ヶ月後の地震災害に対する関心